



CLOSE UP VOICE

株式会社 伊勢安金網製作所

代表取締役 **安藤 充宏** さん(写真右)取締役 **安藤 和将** さん(写真左)理念伝承と技術革新が
紡ぐ承継の道

後継者不在を理由に廃業を選ぶ中小企業が後を絶たず、技術や雇用の喪失が深刻な課題となっており、円滑な事業承継が国を挙げたテーマとなっている。

先進技術の積極導入と一貫生産体制を強みに、永く業界を牽引してきた老舗金網メーカー・伊勢安金網株式会社は、親から子へと事業のバトンをつなぐため、入念な準備と対話を重ね、着実な歩みを進めている。卓越した技術力と顧客との信頼関係を受け継ぎながら、事業承継を契機に未来を見据えた革新に挑む、親子の想いと取り組みを伺った。

先進技術で強みの拡大と
金網の可能性を追求

——貴社の事業内容をお聞かせください。

充宏▶昭和27年の設立以来、土砂崩れや落石の防護、河川の護岸など土木分野を中心に、建築、機械、畜産分野など多岐にわたる金網の製造・販売を展開し、業界をリードしてまいりました。主要製品には、クリンプ金網、菱形金網、溶接金網、打抜金網があり、とりわけクリンプ金

——貴社の強みや特徴を教えてください。

充宏▶材料の仕入れから金網製造、出荷までを一貫して手がけ、短納期で高品質な製品を提供しています。また、長年培った技術力を活かし、多品種少ロット生産や規格品によらないオーダーメイド生産に素早く、柔軟に対応できる点も強みです。

さらに、海外の先進技術を積極的に導入し生産の自動化をいち早く実現しました。また、プレスや溶接など加工範囲を広げ、放電加工機やフォーミング機等の周辺機器を揃えることで新事業創出の足掛かりになると考えています。未来への挑戦を忘れず、革新を追求する姿勢が、成長を加速させている要因であると考えます。

——競争力をさらに高めるための取り組みを教えてください。

充宏▶コーポレートコピーとして「金網事業の新規創造 / Winenet Creation」を掲げ、金網製品の可能性を広げること、お客様のニーズに応え、社会に貢献する価値の創造に取り組んでいます。

具体的な例としては、金網に石を充填した外壁の製品化を目指した研究を名古屋工業大学と進めています。強度計算や材質選定の検証を重ねることで、新たな建築用途の開拓を推進しています。

網は、国内市場の約50%というトップクラスのシェアを誇っています。また、全国での自然災害の復旧にも当社製品が採用されており、社会基盤の維持や環境・暮らしの安全を陰ながら支えていると自負しております。

近年では、建築資材としてのインテリア金網にも注力しており、東京の虎ノ門ヒルズやハイブランドの店舗装飾に採用されるなど、新たな市場を開拓しています。従来の概念にとられない金網の可能性を日々追求しています。

また、海外の採石場で使用されるふるい機は、ウレタン樹脂製の網が主流になりつつあります。これに対抗すべく、当社もイタリア企業との提携を進め、従来比3倍の耐久性を誇る新素材の加工技術導入を計画しています。国内でも限られた企業しか手掛けていない先進技術を導入することで、競合他社との差別化を図るとともに、製品寿命の延長による、お客様のコスト削減と生産性向上に貢献していく考えです。

早期準備こそ事業承継の要

——事業承継を進めていると伺いました。そのきっかけを教えてください。

充宏▶一般的に経営が順調なうちは、事業承継を後回しにしがちです。しかし、営業SFAの導入や製造管理システムの構築といったデジタル対応を進める中で、変化の激しい時代における自身の限界を実感するようになりました。そこで、会社の理念や私の経験を受け継いでくれ、加えて次世代の視点を持った人材の必要性を強く認識し、4年ほど前から事業承継に向けた準備を始めました。

——準備した内容を教えてください。

充宏▶事業承継の計画書と年表を

INTERVIEW



株式会社 伊勢安金網製作所
豊橋市三ツ相町277
0532-31-2255

とくに後継者の意識を高めるためのサポートは非常に効果的であり、妻の協力があつたからこそ承継が円滑に進んだと感じています。

これらのポイントを押さえた事業承継は、単なる世代交代ではなく、企業の成長につながる大きな転機であると確信を持っています。

——将来のビジョンについて教えてください。

充宏▼「金網事業の新規創造」の精神を引き継ぎ、新たな価値創造を追求し、次の時代を見据えた取組みを強化していきます。

和将▼後継者として研鑽を積んでいる真ただ中であり、承継後のビジョンはまだ明確な形になっていませんが、「つづける・やめる・かえる・つくる」の4つを軸に将来の展望を整理しております。

——和将さんはどのような経緯で事業承継を決意されましたか。

和将▼父から事業承継の話を決めて持ちかけられた時は、東京の総合商社に勤務し、電気自動車関連のビジネスに携わっていました。勤め先の仕事にやりがいを感じていたことに加え、父の会社の事業内容を十分に理解できておらず、不安が先に立ち、一度は断りました。

しかし、その後、父の作成した承継計画資料に触れ、家族とも話し合いを重ねたことで、会社が持つ魅力と可能性に気付くことができたので、挑戦する決意を固めました。

——事業承継へのステップのなかで、和将さんほどのような取り組みを行っていますか。

和将▼昨年9月に入社し、事業承継に向けた経験を積む一貫として、現在はバックオフィスや製造現場での業務に従事し、理解を深めています。社長や従業員との対話を重ねる中で、企業の将来像や取り組むべき課題がより明確になってきました。また、経営者の人柄が会社を与える影響の大きさを日々実感し、経営者としてあるべき姿を模索しています。

この点においては、お客様や従業員、私と同じく事業承継を進める仲間との関わり合いや交流を通じて、さらに深めていきたいと考えています。

——事業承継を進める上での重要ポイントを教えてください。

充宏▼「誰に承継するか」という点だと考えます。中小企業では親族内承継が一般的とされていますが、その理由の一つに、経営者である父親の姿を最も身近で見て育つことで、自然と次期経営者としての意識が芽生えることがあると思います。

事業承継の話が上がった当初、長男は慎重な姿勢を見せていました。しかし、会社の魅力を理解する中で、次第に意識が変化し、最終的には覚悟を決めるに至りました。これには、父であり、経営者でもある私の姿を意識的に見て、経営の楽しさを自然と感じ取ったことも影響して

事業承継は単なる世代交代ではなく 企業が成長する絶好の転機

ISEYASU WIRENET CREATION'S TOPICS

京都五花街の一つである京都市東山区宮川町では、歌舞練場の建て替え工事が進行中。世界的な建築家である隈研吾氏の監修・設計のもとで、2025年春の完工を予定している。

建物のファサードには、(株)伊勢安金網製作所のメタルメッシュ「コニストンNo.5」が採用された。すだれを想起させるデザインの装飾金網に硫化いぶし塗装を施すことで、古都の街並みに調和した建築デザインを実現する。



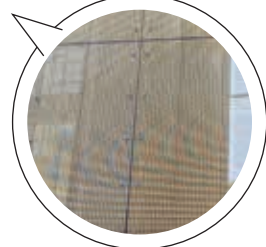
※完成イメージはNTT都市開発株式会社様ニュースリリースより引用

現在の施工状況

Construction Scene



拡大



いると思います。

——事業承継を検討されている経営者へのアドバイスやヒントをいただけますか。

充宏▼親族内承継を円滑に進めるためには、4つのポイントがあると考えています。

まず、会社規模の大小に関わらず、子どもが継ぎたいと思える会社をつくることが不可欠です。幼い頃から自社製品が社会に貢献する姿を意識的に見せるなど、会社の意義や魅力を実感できる環境を整え、自然と愛着を深められるようにすることが大切です。

次に、未来に投資できる強固な財

務基盤を築くことが重要です。安定した財務体質が整っていれば、将来の事業拡大や設備投資が可能となり、承継の際の不安要素を減らすことができます。

また、事業の裾野を広げる努力も欠かせません。既存事業に固執せず、柔軟な経営姿勢を持ち続けることで、変化する市場に対応できる企業体制を築くことができます。そのため、設備投資や新商品の開発を継続的に行うことが求められます。

そして、何より家族間のコミュニケーションが成功の鍵を握ります。我が家では、妻が私と子ども達の間を取り持ち、事業承継をスムーズに進める役割を果たしてくれました。

